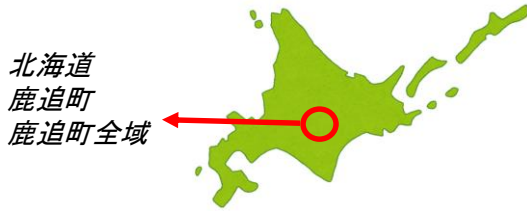


産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(28年度:計画作成主体:鹿追町地域農業再生協議会)(北海道)

取組の概要

対象品目 : キャベツ (産地面積: 57ha)
 主な取組主体: 鹿追町農業協同組合
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 基準 (H27年度) 272,429円/10a
 目標 (H30年度) 487,500円/10a
 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース
 (キャベツ収穫機 1台))



ポイント

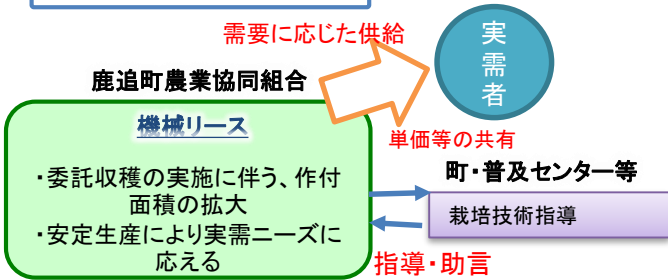
【産地の課題及び取組方向】

キャベツ収穫機を導入することで、収益性の高い加工・業務用キャベツの適期収穫が可能となり、品質の向上や収量が増加し、安定的な出荷が可能となる。また、作業の省力化により作付面積を拡大し、販売額を78.9%増加させる。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ①委託収穫をJAで担うことで、生産者の収穫負担を軽減
- ②収穫機を個人へ貸し出すことで、生産者の投資リスク低減と機械を効率的に活用してコストを削減
- ③メッシュボックスのリースを活用してコストを削減
- ④収穫適期を確認するため収穫前の巡回を強化し、収穫機の効率的な運用と適期収穫による収量向上を目指す。
(適期収穫に向けた収穫予測システムを試験場、企業と開発して、適期収穫でより高収量を目指す。)

産地体制



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・大学、試験場、民間企業と組んで更に効率の高い収穫機開発を進めている
- ・RFIDをメッシュボックスに付け、生産履歴等のデータを共有し、トレーサビリティを確立

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①委託収穫による栽培面積拡大
- ②個人収穫による反収の向上とコスト削減
- ③メッシュボックスリースによるコストの削減
- ④適期収穫のための対策による収量向上と機械の効率化でコスト低減

【事業実施による間接効果】

- ①収穫量が増え、安定供給が出来るようになり取引先と取扱数量が増加



販売額が81.9%増加
(達成率103.7%)

